

第4講 古代メソポタミア文化の展開

レポート講評：先回「人はなぜ食料を生産するようになったか」というテーマでレポートを書いてもらった。気候変動による食料確保の必要性に迫られて、という外的な環境変化に対する人間の適応戦略として捉えるレポートが多かった。これはある意味で常識的な解答だろう。狩猟・採取よりは効率的に食料を確保できるという農業の生産効率性を指摘するものや、安定した食料確保の戦略としての農業の発生に言及するものがあり、狩猟採取経済に比して農業経済の利点に着目した記述があり、注目される。さらに長い狩猟採取時代を通して動植物の習性を知ることや馴化や品種改良の技術の蓄積によって牧畜が考案されたというレポートもあり、面白い観点を提示していた。人口増加と集落の大型化による社会的圧力によって従来の経済の在り様から脱して、新しい経済を構築せざるを得なかったという意見を展開するものもあり、この問題を考古学的なデータと照らし合わせて検証していく必要性を痛感させた。

レポート課題：なぜレバントにおける農業文明がさらなる大型化の壁に突き当たったのか？

古代メソポタミア年表

時代区分	開始年代	終末年代	事由
カリムシャヒル	8000	6800	農耕牧畜直前・放牧の中間に利用
ジャルモ	6800	5800	最初期の集落・20~30戸
ハッスーナ	5800	5500	ティグリス河畔の平野部に進出
ウバイド	5500	3500	南部メソポタミアに農耕集落
ウルク	3500	3100	気候の乾燥化・都市革命・絵文字・en
ジェムデトナスル	3100	2800	ウルク以北への都市化・都市の拡大

初期王朝Ⅰ	2800	2700	ケンギル同盟・en と lugal
初期王朝Ⅱ	2700	2500	都市国家間の抗争
初期王朝Ⅲ	2500	2350	ラガシュのウルナンシェ朝
アッカド	2334	2193	メソポタミア地方の統一・サルゴン
ウル第三王朝	2112	2004	シュメール人最後の統一王朝・官僚制
イシン・ラルサ	2004	1763	イシンとラルサの対立
バビロン第一王朝	1763	1595	ハンムラピ・法典・ヒッタイトの侵入
カッシート朝	1595	1157	エジプト・ヒッタイトの抗争・エラム
バビロン第四王朝	1156	1046	アラム人の侵入
バビロン第十王朝	732	730	813 アッシリアのバビロン占領
アッシリア	745	612	ティグラトピレセル3世
四国対立	612	538	ネブカドネザル
アケメネス朝	550	331	538 新バビロニア・525 エジプト征服